

## 令和4年度第1期アーバンデザインセミナー第3回実績報告書

### 1. 開催日時

令和4年10月1日（土）13時00分～14時30分

参加人数: 17名（UDCBKでの視聴: 14名、オンライン: 3名）

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、11回

### 2. テーマおよび話題提供者

「地域資源の価値を可視化する」

- コミュニティにおけるヒト、モノ、コトのつながり促進や地域課題解決のアプローチの事例など、今年度のセミナーのテーマである「大学のあるまち・学生の住むまち」について、地域コミュニティとのつながりの視点から3回シリーズで展望する「つながりのあるまち」の第3回である。
- 第3回の本セミナーは、学生による研究プロジェクトの成果を通じた、地域に眠る資源の価値を可視化することで生まれる新たなまちづくりやビジネスの展開について、立命館大学 経済学部 教授の寺脇拓氏を講師に迎え、開催した。



### 3. 話題の概要

#### (1) 寺脇氏による講演

##### ア. 経済学とは

- 経済学は、お金に関するものというイメージがあるが、人間社会の幸福の追求がテーマとなる。
- 経済学は、社会のあるべき姿とそのための方策を提案する。

##### イ. 環境に対する経済学の見方

- 人間社会を取り巻く自然環境によって、原材料の提供と快適な環境（アメニティ）の創出という両方の側面から効用（満足感）が得られる。
- 原材料の利用とアメニティの創出はトレード・オフの関係になる。つまり、自然環境を経済システム内部に取り込むほど外部からの効用は少なくなる。
- 環境と経済のバランスを探る学問が環境経済学である。
- 環境の価値を評価するためには、金銭単位に換算する必要がある。つまり、環境はいくらになるか、ということである。

##### ウ. 環境の価値を測る

- 環境はマーケットで売買されないため、その価値を測るには特別な手法（非市場評価法）が必要となる。その一つがコンジョイント分析である。
- 例えば、プラスチックストローに代えて琵琶湖のヨシを使ったストローにする場合、飲み物の価格上昇分としていくら支払うことができるかという支払意思額を見ることである。
- 非市場評価法によって、地域資源を活用して新たに生み出される価値を可視化することができる。その価値によって、まちづくりやビジネスを進めるべきか否かが判断できる。価値が費用を上回らなければ、市場に供給することは難しくなる。

##### エ. 寺脇ゼミの活動

- 環境・食品安全・歴史文化財の経済学をテーマとして、非市場財の価値を計測し、それらを含めた社会の在り方を考えている。
- 地域連携・課題解決型プロジェクトとして、学んだ知識を使って実社会の課題に応える集団的な研究活動を行っている。

##### オ. 米粉スイーツ×古民家カフェプロジェクト（2021年度）

- 水田や古民家といった日本の原風景を守るという視点から、米粉スイーツと古民家カフェの価値を計測し、その普及可能性を見極めた。
- 事前の研究成果から米粉スイーツと古民家カフェのそれぞれには一定の需要があり、

水田の保全や古民家の保存といったことにつながる可能性が分かっていた。よって両者の相乗効果を考慮し、「米粉スイーツを提供する古民家カフェ」というプロジェクトの立ち上げに至った。

- 滋賀県にはそのような対象となるカフェがほとんどなかったため、米粉スイーツを古民家カフェで楽しむイベントを期間限定で開催し、支払意思額を調査した。
- 大津市内の古民家で米粉スイーツを販売するとともに、米粉スイーツと古民家カフェを紹介するパンフレットを作成し、イベント参加者とパンフレット利用者に対するアンケートを実施した。
- 調査の結果、古民家カフェと米粉スイーツを組み合わせることによる需要の相乗効果は否定されたが、米粉スイーツを提供する古民家カフェには相場の2倍の価格帯で人々が訪問する可能性があることが判明した。よって、価格上昇分を活かして日本の原風景が継承できるかもしれない。

#### カ. 青空ブックカフェプロジェクト（2020年度）

- コロナ禍のなか、読書をしながら静かに過ごすことができるブックカフェは、カフェのあるべき姿の一つとして有効ではないかと考えた。
- 自然に囲まれながら読書できる、オープンテラス付きのブックカフェに対する需要（価値）を計測した。
- 大津湖岸なぎさ公園で読書と共にカフェを楽しむイベントを開催し、滋賀県内の古書店に出店してもらうとともに、古書店・ブックカフェを紹介するパンフレットを配布した。
- 調査の結果、ブックカフェにオープンテラス付きの属性を加えることによる需要の相乗効果は否定されたが、ブックカフェに対するコーヒーの支払意思額から、ブックカフェは十分に普及可能であると判明した。

#### キ. 活動の意義と課題

- 経済産業省が提唱する社会人基礎力には、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」がある。大学の一般的な授業において、学生の「考え抜く力」は養われるが、ほかの二つを身に付けるのは難しい。しかし、本プロジェクトでは、この二つの力を養成するのに有効であると思われる。
- 地域にとっても資源活用の価値を知ることができ、学術的な知見を地域の発展につなげることができる。
- 課題としては、学生の関心に応じて研究テーマを決めているので、毎年新しいものは生まれ続けるが、持続性や継続性という点からは地域が求めるものとずれが生じる。
- 資金調達には課題があり、クラウドファンディングの活用などを行っている。
- プロジェクトの成果を蓄積することで、地域との強いコネクションも生まれている。

#### 4. 質疑応答等

- (1) 参加者 1: 価値を測るときに、労働の価値というものを測る方法もあると思うが、どう思われるか。

寺脇氏: ガソリン代などの犠牲を払うということからも価値を測ることはできるが、支払った以上のものを観察するというのも一つの尺度になる。例えば、ボランティアで森を守るという行為は、目に見えるコストを上回る価値がある。

- (2) 参加者 2: ヨシストローの作り方について教えてほしい。

寺脇氏: 学生が手間をかけて作っている。それゆえ、労働コストだけを見ると、500円程度になってしまう。今年度のプロジェクトとしては、ヨシストローのリユースについて考えたり、大量生産でコストを下げたりする可能性も視野に入れたりしている。

参加者 2: お話の中で継続性ということもあったが、企業とのコラボレーションなどによってコストが下がるとよいと思う。

- (3) 参加者 3: ストローについてのストーリーを聞くと使ってみようという気になる。

寺脇氏: 米粉スイーツや古民家カフェについても色々なストーリーがある。そういったことを人に伝えるということで、受け入れてもらいやすくなるのだと思う。情報を上手に伝えることの大切さという点はクラウドファンディングにおいても痛感する。

参加者 3: ストーリーを聞けるところがあるとよい。

- (4) 参加者 4: ブックカフェの飲み物の提供はどのようになっていたのか。

寺脇氏: 飲み物は各自持ってきてもらうこととしていたが、上手く伝わっていないことがあった。記者発表などもしたが広報は課題であった。その教訓から次年度よりポスティングをするなど周知には工夫した。

参加者 4: 参加者に偏りがないようにするためにも広報は大切だと思う。

- (5) 参加者 5: テーマはどのように選んでいるのか。

寺脇氏: 学生のやってみたいテーマの中から社会的な視点や実現可能性を考慮して最終的には判断している。

- (6) 参加者 6: 当初想定していた内容と比べて、実際に人が関与することで何か新しい発見などはあったか。

寺脇氏: ブックカフェを実践したあとで、色々なところで同じようなイベントが派生

してきたように思う。研究者が取り組んでいるだけでは社会的には注目されないが、学生が関わることで社会が動くと感じる。

(7) UDCBK: 地域の人々が資源を可視化していた事例などはあるか。

寺脇氏: 地域の人々が価値を評価するというのは難しいところがあるが、アンケートするだけでも違う。気づき生まれる。

## 5. アンケートまとめ

参加者 17 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 14 名だった。

### 問 1. 参加者属性

(1) 年代 (回答数: 14)

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
3	4	6	1

(2) お住まい (回答数: 14)

草津市内	滋賀県内他市	滋賀県外
11	3	0

(3) 職業 (回答数: 14)

学生	大学関係者	会社員等	その他
3	1	5	5

(4) 開催を知った手段 (複数回答) (回答数: 15)

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
3	1	1	4	1	4	1

### 問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 学生が地域のことをしり、地域に住みたい、地域で就職したいといったことにつながることはあれば嬉しいなと思います。
- 「環境の価値・・・非市場評価の可視化」のお話は大変印象に残りました。ヨシストローの取り組みはとても素晴らしく、ぜひ、継続して頂きたいと思いました。ただ学生さんの手作りと同じ、学生さんの負担が大きすぎるとも感じます。ヨシストローを、その取り組みの内容と共に、ぜひ一般の市民の目に触れる場所に、応援しやすい形で

置いて頂きたい、と思います。そして、その数の確保の為に、ぜひ企業との連携などで1つの事業の形となり、研究・取り組みが継続して欲しいと思っております。

- 地域連携ではお世話になっております。経済学の観点からの視点や考え方を楽しく学ぶことが出来ました。引き続き地域資源価値の可視化に期待しています。
- 第1回から第3回まで受講させていただきありがとうございました。
- 経済学について、どういった研究をされているのかよく分かった。今後学生の方々がもっと地域と連携していくことを望みます。
- 久しぶりに講義を受けた感じでした。新鮮なお話ありがとうございました。
- 「経済学」は社会の幸福を追求する学問であることを前提に取り組み事例を分かりやすくお話しいただいた。草津市内でも活動していただきたい。
- 環境など価格のつかないものに価格を付ける（イベントに想定価格を付ける）。学生さんの研究プロジェクト協力隊が地域にいらっしゃると思います。
- 環境経済学の基本と実施例を知ることが出来てよかったです。
- 経済学については、金銭の動きをイメージしてしまいましたが、今回は非市場評価手法という分野などを知れてよかったです。学生の方が地域で活動された感想を聞いて、成長されたことを感じました。
- まちづくり地域活性化に興味がありますが、データをもとに企画するという視点はあまりなかったので、参考になりました。
- 学生目線ではなく、地域の方々の視点からの質問が非常に鋭いと感じました。

### 問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- マイクの音量が小さくて、こちらのパソコン音量を最大にしても、聞き取りにくかったです。また、今回の参加人数が非常に少なく感じましたが、私は土曜の開催は仕事をしているので大変ありがたいです。このセミナーはもっと多くの方が参加すべきだと思うとても良い内容です。人数が少ないのが残念です。
- 少し長く感じました。盛沢山でした。
- 時間は1.5時間（実際2時間）で良いです。